

(様式第9)

川学法第507号
平成25年10月3日

厚生労働大臣 殿

川崎医科大学附属病院
学校法人 川崎学園
理事長 川崎謙

川崎医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	51.6人
--------	-------

（注）前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照（様式第12）

- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照（様式第13）

- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	390人	28人	394.0人	看護補助者	145人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	2人	4人	2.4人	理学療法士	39人	麻酔臨床検査技師	78人
薬剤師	45人	3人	46.0人	作業療法士	35人	衛生検査技師	0人
保健師	7人	0人	7人	視能訓練士	13人	検査その他	0人
助産師	7人	2人	7.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	770人	28人	781.1人	臨床工学技士	17人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	30人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	0人	事務職員	120人
管理栄養士	22人	0人	22人	診療放射線技師	42人	その他の職員	33人

- （注）1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	644.8人	2.4人	647.2人
1日当たり平均外来患者数	1,714.9人	43.2人	1,758.1人
1日当たり平均調剤数		3,175.2剤	

- （注）1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を曆日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	活性化自己リンパ球移入療法	取扱患者数	75人
当該医療技術の概要			
活性化自己リンパ球移入療法は、採血によって樹状細胞とリンパ球を採取し、試験管内でがん抗原(がん細胞、ペプチド抗原、ピロリン酸)を用いてリンパ球を活性化し、再度点滴でお身体にお戻しする治療である。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	新規がんペプチドワクチンの臨床研究	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
標準治療に不応の食道癌、胃癌、大腸癌、胆囊癌、肺がん、乳癌患者を対象に、がん抗原エピトープペプチドのカクテルをアンダマイドによってエマルジョン化し皮内・皮下に投与して、腫瘍縮小効果と安全性について検討する研究治療である。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	ドクターへリ導入促進事業	取扱患者数	424人
当該医療技術の概要			
当院救命救急センターにドクターへリを岡山県からの委託により配備し、救急患者の救命率向上、広域救急患者搬送体制の向上を図っていく。(救急科・高度救命救急センター)			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
手術不可能な重症大動脈弁狭窄症に対して、局所麻酔下に大動脈弁狭窄を解除する治療(循環器内科)			
医療技術名	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
静脈鬱滯性潰瘍や皮膚炎などの下肢静脈瘤重症例に対し、その原因となる不全穿通枝を健常皮膚部に2-3cmの小切開を加え、筋膜を切開、筋膜下層を剥離した後、硬性内視鏡を筋膜下腔に留置し、内視鏡を確認しながら不全穿通枝を同定し、切離する。(心臓血管外科)			
医療技術名	自己血回収器具(Cell Saver)を用いた術中自己血回収	取扱患者数	122人
当該医療技術の概要			
術中に自己血回収器具(Cell Saver)を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(心臓血管外科)			
医療技術名	がんペプチドワクチンによる治療、および抗CCR4抗体療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
固形がんに対するがんペプチドワクチンによる治療、および免疫抑制細胞を標的とした抗CCR4抗体療法(呼吸器内科)			
医療技術名	気管内治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
悪性および良性疾患による気道狭窄や気管瘻に対して全身麻酔下に腫瘍の切除や気管支拡張術やステントを留置し気道を確保するものである。24年度は対象患者がなく実施はしていない。(呼吸器外科)			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
間質性膀胱炎は蓄尿時の膀胱痛および頻尿を主症状とする疾患である。近年その患者数は増加傾向にあるが有効な診断法、治療法がないのが現状である。唯一その中で、診断と治療を兼ねた方法が腰椎麻酔下の水圧拡張術である。(泌尿器科)			

医療技術名	難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
薬剤抵抗性の切迫性尿失禁患者の膀胱壁に内視鏡を用いてA型ボツリヌス毒素を注入し、排尿筋過活動に伴う尿失禁を治療することを目的とする。(泌尿器科)			
医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
局所限局性前立腺癌に根治的治療である前立腺全摘除術を腹腔鏡下で行い、低侵襲性と拡大視野による良好な制癌効果が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	腎細胞癌に対する腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
小径の早期腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎部分切除術を行うことで腎温存と低侵襲性の両方が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	骨髄内臍帯血移植ミニ移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
同種臍帯血移植の最大の欠点は、生着不全が他の移植ソースに比して多いことであるが、これを臍帯血を直接骨髄内に注入することによりより確実に早期の生着を図る治療法である。(血液内科)			
医療技術名	HLA2座以上不一致血縁者間造血幹細胞移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
通常の移植では、HLAを合致させて移植するが、治癒することが困難な血液疾患を、HLAをあえて2座以上不一致させて、ドナー細胞の免疫による腫瘍の排除を図る治療法である。(血液内科)			
医療技術名	脂質異常症における遺伝子診断	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
脂質異常症の病因検索として、患者の遺伝子解析を行い、診断・治療に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	1型糖尿病におけるHLAの解析診断	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
1型糖尿病・劇症型糖尿病の診断補助として、HLA(組織適合抗原)の解析を行い、正確な診断を下すとともに、インスリン強化療法の早期導入に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	持続皮下グルコース測定(CGM)	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要			
主に1型糖尿病症例に対し、1日288回×3日連続で皮下留置センサーにて血糖のモニタリングが可能となった。より詳細な血糖変動の把握が可能である。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	皮下インスリン持続静注療法(DSII)	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
精密なポンプを利用した、インスリン持続皮下注入による血糖のより厳格な管理が可能となる。主に1型糖尿病、糖尿病合併妊娠症例が対象となる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	経頭蓋的磁気刺激法による脳神経機能診断	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要			
経頭蓋的磁気刺激法は、非侵襲的に錐体路の機能を評価する方法であり、多発性硬化症や神経変性疾患等の診断に有用である。(神経内科)			
医療技術名	単一筋線維筋電図による神經・筋疾患の診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
単一筋線維筋電図は、神経接合部における伝達障害の最も感度の高い検査法であり、重症筋無力症の診断に有用である。(神経内科)			

医療技術名	遺伝性神経・筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
筋ジストロフィー、遺伝性ニューロバチー、神経変性疾患(脊髄小脳変性症、パーキンソン病)を対象として、FISH法、サザンプロット法、PCR法等による遺伝子診断を行う。(神経内科)			
医療技術名	眼瞼痙攣、痙性斜頸に対するボツリヌス治療	取扱患者数	110人
当該医療技術の概要			
眼瞼痙攣、Meige症候群、痙性斜頸を対象として、ボツリヌス毒素の局所注射による治療を行っている。(神経内科)			
医療技術名	神経変性疾患に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経難病を対象として、神経細胞に磁気刺激を与えることにより、神経機能の改善をはかる治療法。(神経内科)			
医療技術名	髄液漏出症に対する自家血パッチ療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
髄液漏出症に対して、患者の血液を採取し、それを脊髄硬膜外に注入し、髄液の漏出箇所をパッチし、治療する方法(脳神経外科)			
医療技術名	神経内視鏡に手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
神経内視鏡を使用して脳室開放術、腫瘍生検術、脳内血腫除去術を施行する(脳神経外科)			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx塞栓術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形(AVM)手術前に新しい塞栓物質であるOnyxを使用して塞栓する。その後安全にAVMを摘出する(脳神経外科)			
医療技術名	修正型電気けいれん療法 (modified electro-convulsive therapy:ECT)	取扱患者数	のべ34人 (のべ191回)
当該医療技術の概要			
修正型電気けいれん療法は、十分な筋弛緩薬を用いた全身麻酔下で、頭部に電流を流すことで全身痙攣発作を起こす精神疾患治療法であり、薬物療法が奏功しない難治性うつ、統合失調症、昏迷状態などが主な対象である。(心療科)			
医療技術名	難治性強迫性障害への行動療法	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
薬物療法が奏功しない、重症で難治性の強迫性障害に対して、集中的な行動療法を行なっている。(心療科)			
医療技術名	遺伝子増幅法を用いた肺炎マイコプラズマ、肺炎クラミジア感染症の迅速診	取扱患者数	1149人
当該医療技術の概要			
全国の医療機関から依頼され、real-time PCR法を用いて、非定型細菌感染症の診断と菌量を測定している。(小児科)			
医療技術名	遺伝子シークエンス法を用いたマクロライド耐性マイコプラズマの薬剤感受性	取扱患者数	504人
当該医療技術の概要			
全国の医療機関から依頼され、マイコプラズマのマクロライド感受性を遺伝子シークエンス法を用いて、迅速に診断している。(小児科)			

医療技術名	ヘルペスウイルスのreal-time PCR	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
突発性難聴などの病態を解明するために、ヘルペスウイルス(サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス)の原因検索を行っている。(小児科)			
医療技術名	発熱性好中球減少症のPCR法を用いた網羅的原因検索	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要			
抗がん剤の投与を受けた好中球減少時に発熱をきたした時、細菌・真菌・ウイルスを含めた網羅的な原因検索をPCR法を用いて迅速に行っている。(小児科)			
医療技術名	漏斗胸に対するNuss手術	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要			
ステンレスバーを脇の小切開創から挿入し、胸壁を持ち上げる方法で従来法と比較すると、手術時間が短く、出血量も少なく、傷も目立たない低侵襲手術。(小児外科)			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC法)	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要			
臍から腹腔鏡を挿入し、腹腔内から観察しながら、腹膜症状突起の根部(ヘルニア囊)の結紮を行います。従来法と比較すると創痕が小さく、さらに反対側開存の検索と治療が同時に可能である。(小児外科)			
医療技術名	小児鏡視下手術	取扱患者数	151人
当該医療技術の概要			
小児では体が小さいため技術的には難しいが、傷が小さくできる・手術後の痛みが少ない・術後の回復が早いなどの利点がある。(小児外科)			
医療技術名	広汎性子宮頸部切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
子宮頸癌治療として、子宮温存・妊娠能温存をはかるものである。(産婦人科)			
医療技術名	乳癌に対する皮下乳腺全摘+ティッシュ・エクスパンダー充填術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
広範な乳管内の癌進展のために乳房温存が不可能な症例に対し、乳房の整容性を保つための術式。(乳腺甲状腺外科)			
医療技術名	自己血回収器具を用いた術中自己血回収	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
術中に自己血回収器具を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	インストルメンテーションを用いた脊柱再建術	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要			
変形性脊椎疾患、脊椎の外傷、転移性脊椎腫瘍に対してインストルメンテーションを用いて脊椎再建術を行なう。変形矯正とともに強固な固定が得られ、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎手術	取扱患者数	69人
当該医療技術の概要			
内視鏡視下手術手技を用いて、後方進入腰椎椎間板ヘルニア摘出術、腰椎椎弓切除術、頸椎椎弓切除術を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			

医療技術名	内視鏡視下脊椎前方固定術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
内視鏡下手術手技を用いて、胸腰椎前方固定を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	経皮的椎間板摘出器具による脊椎炎持続洗浄療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
化膿性脊椎炎に対して、経皮的に病巣搔爬し、持続洗浄を行なう。この方法は最小侵襲手技であり、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	脊髓誘発電位測定	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要			
脊椎・脊髄の手術において脊髓誘発電位をモニタリングすることで安全に手術が行なえる。(整形外科)			
医療技術名	切断指(趾)に対する顕微鏡視下手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
手指の組織欠損、足趾欠損に対して、顕微鏡視下でしか確認できない指動静脈や指神経を吻合、縫合し、再接着を行い本来の指趾機能を回復させる。(整形外科)			
医療技術名	関節鏡視下手術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要			
関節鏡を用いて股関節唇障害や膝半月板損傷、棚障害、関節鼠に対して、鏡視下に縫合術や切除・摘出術を行なう。さらに関節内骨折に対する整復固定術や韌帯再建術も関節鏡視下に行なう。侵襲が少なく、術後の機能回復が早い。(整形外科)			
医療技術名	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	取扱患者数	96人
当該医療技術の概要			
術前に骨盤から足までのCTを撮影し、それを3次元的に再構築したうえで、術前計画を行う。その後に人工股関節置換術をナビゲーションを用いて施行する。(整形外科)			
医療技術名	嚥下障害に対するボツリヌス毒素を用いた治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
球麻痺等による輪状咽頭筋弛緩不全をきたしている症例に対してBotox [®] を施行する。(リハビリテーション科)			
医療技術名	高次脳機能障害の社会復帰を目的としたリハビリテーション治療	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
高次脳機能障害患者の社会復帰のため個別/集団リハを行い、復帰率を高める。(リハビリテーション科)			
医療技術名	先端医療・介護機器を用いたリハビリテーション推進事業	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
ロボットスーツHAL [®] を脳卒中をはじめとする身体障害者に用い、機能回復ならびにADL向上に対する効果を検証。(リハビリテーション科)			
医療技術名	嚥下障害患者に対する電気刺激療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
嚥下障害患者の障害された嚥下関連筋に対して電気刺激を行い、機能回復を図る。(リハビリテーション科)			

医療技術名	磁性流動体ブレーキを用いた短下肢装具の開発	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
足継手の部分に磁性流動体ブレーキを用い、短下肢装具の高性能化を目指す。(リハビリテーション科)			
医療技術名	インターフェロン感受性遺伝子(IL28B遺伝子型)解析	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
C型慢性肝炎患者に対するペグインターフェロン+リバピリン治療効果予測の為に、上記遺伝子検査を行い、治療効果予測に準じたティラーメイト医療を実践している。(肝・胆・膵内科)			
医療技術名	胸腔鏡下食道切除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
食道がん手術を胸腔鏡、腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下胃癌手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
胃癌手術を腹腔鏡補助下に行う低侵襲手術(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	61人
当該医療技術の概要			
大腸癌手術を腹腔鏡補助下に行う低侵襲手術(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
肝臓癌(原発性、転移性)手術を腹腔鏡下に行う低侵襲手術(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下胆道、膵切除術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
胆管癌、膵臓癌手術を腹腔鏡下に行う低侵襲手術(消化器外科)			
医療技術名	局所脳血流量の定量	取扱患者数	151人
当該医療技術の概要			
I-123 IMP SPECTと動脈採血による局所脳血流量(rCBF)の定量は、脳血流シンチグラフィによるイメージのみでは評価が困難な瀰漫性の病変に対して、客観的なデータを供給できる。(放射線科(核医学診療))(神経内科)(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	緑内障インプラント手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
緑内障のインプラント手術は二十年以上前から試みられてきたが、成功例が少なかった。近年、材料の開発が進み、治療法として確立されつつあるところである。(眼科)			
医療技術名	シャンデリア硝子体手術	取扱患者数	387人
当該医療技術の概要			
シャンデリアは硝子体手術の際に眼内を照らす最新の機器であり、両手を使用する複雑な手術には特に有効である。(眼科)			
医療技術名	高周波熱凝固療法による癌性疼痛の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
薬物にて十分疼痛のコントロールができないがん性疼痛に対し、疼痛の該当神経への高周波熱凝固療法にて治療を行う。(麻酔・集中治療科)			

医療技術名	cine-dynamic MRCPによる膵外分泌機能診断	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
選択的IRパルスを用いたcine-dynamic MRCPを膵疾患患者に施行し、膵外分泌機能診断を行うことで、慢性膵炎などの診断に役立った。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	頭頸部癌に対する超選択的動注化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
頭頸部癌に対し、カテーテルを用いて超選択的に腫瘍栄養血管へ抗癌剤を動脈内投与することで、咽喉頭を温存しつつ治療する。放射線照射や全身化学療法を併用することで、咽喉頭切除と同等の局所制御が得られる。また、再発症例にも適応できる。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
コンピュータ制御で治療ビームの強度を最適化することにより、従来の照射方法よりも低侵襲で高い根治性を実現できる。早期癌のみならず、従来は治療困難であった進行癌に対しても有用性が期待される。(放射線科(治療))			
医療技術名	脳定位放射線治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
コンピュータ制御で治療ビームの強度を最適化することにより、放射線高感受性臓器が隣接している症例においても、従来の照射方法よりも低侵襲で高い根治性を実現できる。早期癌のみならず、従来は根治困難であった進行癌に対しても有用性が期待される。(放射線科(治療))			
医療技術名	肺定位放射線治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
専用の体幹部固定具を用いて位置精度を高め、病変のみピンポイントで高線量を照射できる。3cm程度までの肺野病変であれば手術に匹敵する治療成績が得られる。入院は不要で、1週間の外来通院で治療が終了する。(放射線科(治療))			
医療技術名	アセタゾラミド負荷脳血流 SPECT 1日法	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの新しい画像再構成プログラム(quantitative SPECT: QSPECT)を用いて、同日に連続して安静時と負荷時のデータを取得し脳循環予備能の評価を行う。(放射線科(核医学診療))(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	脳血流SPECTの画像統計解析	取扱患者数	676人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの検査結果を、画像統計解析法を用いて、脳表像と断層像について健常者画像データベースに対するZ値で表示する。(放射線科(核医学診療))(神経内科)(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	有限要素解析法を用いた骨強度の評価	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
有限要素解析を用いてX線CTのデータから一定の条件下での骨の破壊強度を推定する。(放射線科(核医学診療))(整形外科)			
医療技術名	赤血球膜異常症の病因解析、遺伝子診断	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要			
赤血球膜異常症の病因解析において、走査電顕を用いた赤血球形態診断、膜蛋白分析、当該遺伝子解析を行い、病因の診断、治療選択に有効であった。(中央検査部)			
医療技術名	HIV-1の薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
HIV塩基配列を確認して、薬剤耐性獲得の有無を検証するのに有用であった。(中央検査部)			

医療技術名	白血病・リンパ腫関連遺伝子診断	取扱患者数	114人
当該医療技術の概要			
PCR法および直接シーケンス法によって骨髄増殖性腫瘍のJAK2遺伝子診断をおこなった。またRT-nested PCR 法により、微小残存白血病細胞の検出を行い、臨床的な寛解の判定や再発の早期診断に有効であった。(中央検査部)			
医療技術名	イマチニブ血中濃度測定	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
HPLC法によってイマチニブ血中濃度を測定し、服薬の確認、有害事象の原因究明、テーラーメード医療に資する情報を得た。(中央検査部)			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	51 人	・膿疱性乾癥	5 人
・多発性硬化症	38 人	・広範脊柱管狭窄症	4 人
・重症筋無力症	61 人	・原発性胆汁性肝硬変	50 人
・全身性エリテマトーデス	208 人	・重症急性膵炎	15 人
・スモン	10 人	・特発性大腿骨頭壞死症	57 人
・再生不良性貧血	32 人	・混合性結合組織病	20 人
・サルコイドーシス	34 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	29 人	・特発性間質性肺炎	6 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	205 人	・網膜色素変性症	16 人
・特発性血小板減少性紫斑病	80 人	・プリオント病	0 人
・結節性動脈周囲炎	37 人	・肺動脈性肺高血圧症	3 人
・潰瘍性大腸炎	223 人	・神経線維腫症	10 人
・大動脈炎症候群	27 人	・亜急性硬化解性全脳炎	1 人
・ビュルガー病	49 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・天疱瘡	18 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4 人
・脊髄小脳変性症	48 人	・ライソゾーム病	1 人
・クローン病	162 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	11 人	・脊髄性筋委縮症	1 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	177 人	・球脊髄性筋委縮症	4 人
・アミロイドーシス	3 人	・慢性炎症性脱髓性多発神経炎	15 人
・後縦靭帯骨化症	40 人	・肥大型心筋症	6 人
・ハンチントン病	0 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	25 人	・ミトコンドリア病	3 人
・ウェゲナー肉芽腫症	6 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	32 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	36 人	・黄色靭帯骨化症	3 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	40 人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床部門と病理診断部門との症例検討会 1か月 20回程度 臨床部門と臨床検査部門との症例検討会 1か月 16回程度
部 檢 の 状 況	部検症例数 34 例 / 部検率 4.1%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
再発・進行癌に対する自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法の臨床研究	山口 佳之	臨床腫瘍科	1300 万円	補委 沖縄先端医療研究共同体
Verify Nowを用いた血小板機能からみた術前抗血小板剤中止のタイミング	種本 和雄	心臓血管外科	120 万円	補委 日本学術振興会
難治性血管炎に関する調査研究班	種本 和雄	心臓血管外科	180 万円	補委 厚生労働省
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業	岡 三喜男	呼吸器内科	600 万円	補委 厚生労働省
肺腺癌に高発現する癌精巣抗原XAGEを標的にした癌ワクチンの特許開発	岡 三喜男	呼吸器内科	130 万円	補委 日本学術振興会
新規の結核感染診断法の特許開発および臨床応用	小橋 吉博	呼吸器内科	100 万円	補委 日本学術振興会
胸膜中皮腫に対するミッドカインの発現解析ならびに新規標的療法の開発	中田 昌男	呼吸器外科	80 万円	補委 文部科学省
肺がんの分子診断法および分子標的治療法の開発	中田 昌男	呼吸器外科	100 万円	補委 厚生労働省
EGF family 受容体を介した非小細胞肺癌の自然・獲得免疫逃避機構の解明	中田 昌男	呼吸器外科	30 万円	補委 日本学術振興会
慢性腎臓病の基盤病態と心血管病との連関機序の統合的理解と新規治療法開発	柏原 直樹	腎臓内科	520 万円	補委 文部科学省
Klotho蛋白による腹膜機能保護作用のメカニズム解析	佐々木 環	腎臓内科	50 万円	補委 文部科学省
慢性腎臓病と心血管病の連関機序としてのアルブミン尿出現の分子機序の解明	駒井 則夫	腎臓内科	160 万円	補委 文部科学省
腎線維化における酸化ストレス依存的Wntシグナル伝達制御機構の解明	佐藤 稔	腎臓内科	170 万円	補委 文部科学省
エリスロポエチノ製剤による血管内皮細胞・内皮機能への直接作用の検討	佐藤 稔	腎臓内科	30 万円	補委 日本腎臓財団
血管内皮機能障害が加齢に伴う腎線維化に及ぼす影響の検討	佐藤 稔	腎臓内科	35 万円	補委 兩備檍園記念財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
糖尿病性腎症病態形成におけるクロトー遺伝子の抗アポトーシス機序の解明	春名 克祐	腎臓内科	190 万円	補委 文部科学省
腎間質線維化における内皮機能障害の役割の解明と腎障害進行阻止のための新規治療法の開発	長洲 一	腎臓内科	100 万円	補委 一般財団法人横山臨床薬理
間質性膀胱炎の膀胱上皮障害に対するサイモシンβ4を用いた治療	横山 光彦 福元 和彦	泌尿器科	169 万円	補委 日本学術振興会
経口糖尿病薬による糖尿病からの離脱および動脈硬化抑制研究(PREVENT-J)	加来 浩平	糖尿病・代謝・内分泌内科	2,604 万円	補委 財団法人循環器病研究振興財団
カベオリン3を介した神経型NO合成酵素制御による筋萎縮の病態治療研究	砂田 芳秀	神経内科	160 万円	補委 文部科学省
糖尿病性多発神経炎の神経再生治療の基礎的検討	村上 龍文	神経内科	110 万円	補委 文部科学省
創傷治癒マウスの再生促進分子によるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療法の開発	大澤 裕	神経内科	80 万円	補委 文部科学省
血中酸化LDL値から頸動脈plaquesの不安定性が推測できるか?	宇野 昌明	脳神経外科	91 万円	補委 日本学術振興会
網羅的スクリーニングによる肺炎クラミジア抗原の分子探索とワクチン開発の展開	尾内 一信	小児科	70 万円	補委 文部科学省
新興感染症ワクチン等の品質及び有効性評価手法の検討に関する研究 分担研究「トラベラーズワクチン等の開発手法の検討」	尾内 一信	小児科	300 万円	補委 厚生労働省
子宮収縮における子宮筋-免疫担当細胞連関・酸化ストレス制御機構の解析	下屋 浩一郎	産婦人科	130 万円	補委 日本学術振興会
出生前診断に由来する人工妊娠中絶に対する一般市民意識の調査	中井 祐一郎	産婦人科	250 万円	補委 日本学術振興会
新生児脳障害に特異的な病態の解明～胎児脳における甲状腺ホルモン関連分子の重要性～	富松 拓治	産婦人科	60 万円	補委 文部科学省
トリプルネガティブ乳癌の新規治療法開発のための基礎研究	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	130 万円	補委 日本学術振興会
乳癌進展における微小環境シグナリングのリン酸化プロテオミクス解析と組織での可視化	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	80 万円	補委 日本学術振興会
乳腺の前癌病変:疾患概念の確立と臨床病理学的意義の検証	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	10 万円	補委 日本学術振興会
スモン集団検診への協力、スモン患者における摂食・嚥下機能の画像評価	椿原 彰夫	リハビリテーション科	60 万円	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
口唇口蓋裂児と発達障害の関連性の検討	日谷 浩通	リハビリテーション科	180 万円	文部科学省 補助委員会
肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究	日野 啓輔	肝・胆・脾内科	150 万円	厚生労働省 補助委員会
進行・再発肝細胞癌に対する動注化学療法と分子標的薬併用による新規治療法の確立を目指した臨床試験(PhaseIII)ならびに効果を予測する	日野 啓輔	肝・胆・脾内科	30 万円	厚生労働省 補助委員会
B型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を行い、新規診断法及び治療法の開発を行う研究	日野 啓輔	肝・胆・脾内科	100 万円	厚生労働省 補助委員会
性差とミトコンドリアbiogenesisからみた肝発癌機構の解析	日野 啓輔	肝・胆・脾内科	430 万円	文部科学省 補助委員会
形態形成シグナル制御による腫瘍癌性幹細胞の微小環境・再構築療法への挑戦	中村 雅史	消化器外科	260 万円	日本学術振興会 補助委員会
IRパルス併用シネダイナミックMRIによる脾液・胆汁・リンパ液の動態イメージング	伊東克 能	放射線科 (画像診断)	195 万円	日本学術振興会 補助委員会
頭頸部がん硼素中性子捕捉療法における加速器線と原子炉線源の臨床的比較検討の研究	平塚 純一	放射線科 (治療)	20 万円	日本学術振興会 補助委員会
病院設置型加速器中性子捕捉療法(BNCT)頭頸部がんに対するBNCTの研究	平塚 純一	放射線科 (治療)	200 万円	国立がん研究センター 補助委員会
有限要素解析法を用いた骨強度評価システムの臨床応用に関する研究	曾根 照喜	放射線科 (核医学診療)	65 万円	日本学術振興会 補助委員会
特発性造血障害に関する調査研究	通山 薫	中央検査部	80 万円	厚生労働省 補助委員会
スフィンゴシン-1-リン酸受容体のリンパ造血器腫瘍の診断・治療への応用	定平 吉都	病院病理部	143 万円	文部科学省 補助委員会
乳腺の前癌変:疾患概念の確立と臨床病理学的意義の検証	森谷 卓也	病院病理部	50 万円	日本学術振興会 補助委員会
トリプルネガティブ乳癌の新規治療法開発のための基礎研究	森谷 卓也	病院病理部	15 万円	日本学術振興会 補助委員会
トリプルネガティブ乳癌の新規治療法開発のための基礎研究	鹿股 直樹	病院病理部	15 万円	日本学術振興会 補助委員会
症例データベースを利用した新しい病理診断コンサルテーションシステムの開発	森谷 卓也	病院病理部	70 万円	国立がん研究センター 補助委員会
Ki-67の測定評価の標準化に関する研究	森谷 卓也	病院病理部	200 万円	日本乳癌学会 補助委員会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
乳癌の発生と進展におけるvasohibin2発現の意義に関する臨床病理学的検討	森谷 卓也	病院病理部	10万円	補 委 東北大学加齢医学研究所

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 50

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本がん検診・診断学会誌 20(2)	癌発生リスクに基づいた胃がん検診をめざして	井上 和彦	総合診療科
医薬ジャーナル 49巻増刊	【新薬展望2013】(第III部)治療における最近の新薬の位置付け(薬効別) 新薬の広場 ワクチン がんワクチン	山口 佳之	臨床腫瘍科
Journal of Cardiovascular Ultrasound 20(2)	Assessment of Mitral Valve Complex by Three-Dimensional Echocardiography: Therapeutic Strategy for Functional Mitral Regurgitation	Kiyoshi Yoshida	循環器内科
European Heart Journal Cardiovascular Imaging	Culprit lesion remodelling and long-term prognosis in patients with acute coronary syndrome: an intravascular ultrasound study	Okura H	循環器内科
The Journal of invasive cardiology 24(10)	Intravascular ultrasound comparison of small coronary lesions between novel guidewire-based sirolimus-eluting stents and conventional sirolimus-eluting stents.	Kume T	循環器内科
Journal of Cardiology 61(2)	A comparison between 40 MHz intravascular ultrasound iMap imaging system and integrated backscatter intravascular ultrasound.	Ryotaro Yamada	循環器内科
Journal of Cardiology 61(3)	Comparison of quantitative measurements between two different intravascular ultrasound systems: In vitro and in vivo studies.	Ryotaro Yamada	循環器内科
J Thorac Cardiovasc Surg 143(5)	A new echocardiographic window to visualize the mitral valve complex during mitral valve repair for functional mitral regurgitation	Kikuko Obase	循環器内科
J Cardiol Jpn Ed 7(3)	左室壁運動と弁逆流評価における携帯型超音波装置Vscanの有用性	古山 輝将	循環器内科
Circulation Journal 76(6)	Evaluation of Conservative Therapy for Intermittent Claudication	正木 久男	心臓血管外科

計 10

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脈管学 52	脈管疾患の画像診断と機能診断 臨床にどう活かす 間歇性跛行の治療方針 -機能的診断法と画像診断を用いて	正木 久男	心臓血管外科
血管外科 血管外科症例検討会雑誌 31(1)	腋窩-両大腿動脈バイパスの適応と遠隔成績	袖木 靖弘	心臓血管外科
静脈学 24(1)	下腿部大伏在静脈本幹へのフォーム硬化療法を併用した大腿ストリッピング手術の治療成績-ポリドカノール濃度の違いによる治療成績の検討-	田淵 篤	心臓血管外科
Internal Medicine 51(10)	Usefulness of tuberculin skin test and three interferon-gamma release assays for the differential diagnosis of pulmonary tuberculosis.	Kobashi Y	呼吸器内科
Internal Medicine 51(14)	Pulmonary Mycobacterium kyorinense disease showed clinical improvement following combined therapy with clarithromycin and levofloxacin.	Kobashi Y	呼吸器内科
Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 18(4)	Relationship between clinical efficacy for pulmonary MAC and drug-sensitivity test for isolated MAC in a recent 6-year period.	Kobashi Y	呼吸器内科
International Archives of Allergy and Immunology 128(suppl 1)	Possible regulatory role of galectin-9 on Ascaris suum-induced eosinophilic lung inflammation in mice.	Katoh S	呼吸器内科
International Journal of Cancer 131(5)	Spontaneous antibody, and CD4 and CD8 T-cell responses against XAGE-1b (GAGED2a) in non-small cell lung cancer patients.	Ohue Y	呼吸器内科
World Journal of Surgical Oncology 10	Membrane-bound Estrogen Receptor-alpha Expression and Epidermal Growth Factor Receptor Mutation are Associated with a Poor Prognosis in Lung Adenocarcinoma Patients	Katsuhiko Shimizu	呼吸器外科
Open Journal of Thoracic Surgery 2	Characteristics of Non-Small Cell Lung Cancer Located in the Right Middle Lobe According to a Retrospective Study of Recurrence and Prognosis	Katsuhiko Shimizu	呼吸器外科
Journal of Immunology 188	HER2/HER3 signaling regulates NK cell-mediated cytotoxicity via MHC class I chain-related molecule A and B expression in human breast cancer cell lines	Okita R	呼吸器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Open Journal of Thoracic Surgery 2	Successful Two-Stage Surgical Treatment for Lung Cancer in a Patient with Contralateral Giant Emphysematous Bullae	Yuji Hirami	呼吸器外科
Open Journal of Thoracic Surgery 2(4)	Current status of Radiologic Diagnosis for Mediastinal Lymph Node Metastases of Non-Small-Cell Lung Cancer: Retrospective Study of pN2 Cases	Shinsuke Saisho	呼吸器外科
Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery 16(2)	Post-recurrence survival of patients with non-small-cell lung cancer after curative resection with or without induction/adjuvant chemotherapy	Shinsuke Saisho	呼吸器外科
Oncology reports 29	Influence of vascular endothelial growth factor single nucleotide polymorphisms on non-small cell lung cancer tumor angiogenesis	Maeda Ai	呼吸器外科
Clinical and Experimental Nephrology 16(4)	Endothelial dysfunction as an underlying pathophysiological condition of chronic kidney disease.	Satoh M	腎臓内科
American journal of physiology. Renal physiology 303(12)	Klotho protects against mouse renal fibrosis by inhibiting Wnt signaling.	Satoh M	腎臓内科
Laboratory investigation 93(3)	Angiostatin production increases in response to decreased nitric oxide in aging rat kidney.	Satoh M	腎臓内科
Therapeutic Apheresis and Dialysis 16(6)	Establishment of a blood purification system for renal failure rats using small-size dialyzer membranes.	Yorimitsu D	腎臓内科
American Journal of Physiology – Renal Physiology 302(11)	Endothelial dysfunction promotes the transition from compensatory renal hypertrophy to kidney injury after unilateral nephrectomy in mice.	Nagasu H	腎臓内科
Kidney and Blood Pressure Research 35(6)	Tacrolimus Induces Glomerular Injury via Endothelial Dysfunction Caused by Reactive Oxygen Species and Inflammatory Change.	Kidokoro K	腎臓内科
International Journal of Urology 19(5)	Editorial Comment to Status of sex reassignment surgery for gender identity disorder in Japan.	永井 敦	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Medica Okayama 66(4)	Intraprostatic Botulinum Neurotoxin Type A Injection for Benign Prostatic Hyperplasia: Preliminary Results with a Newly Purified Neurotoxin.	横山 光彦	泌尿器科
Urologia Internationalis 90(1)	Long-Term Safety and Efficacy of Two Different Antimuscarinics, Imidafenacin and Solifenacin, for Treatment of Overactive bladder: A Prospective Randomized Controlled Study	横山 光彦	泌尿器科
Thrombosis and haemostasis 109(4)	Alloantibodies against the B subunit of plasma factor XIII developed in its congenital deficiency.	Wada Hideho	血液内科
Haematologica 97(6)	Discontinuation of imatinib in Japanese patients with chronic myeloid leukemia.	Sugihara Takashi	血液内科
PLoS One 7(8)	Mutation Patterns of 16 Genes in Primary and Secondary Acute Myeloid Leukemia (AML) with Normal Cytogenetics	Toshinori Kondo	血液内科
Diabetes Management 2(5s)	Pioglitazone ODTs offer potential to improve treatment compliance in Type 2 diabetes mellitus.	Kaku Kohei	糖尿病・代謝・内分泌内科
Diabetes Obes Metab	Efficacy and safety of dapagliflozin as a monotherapy for type 2 diabetes mellitus in Japanese patients with inadequate glycaemic control: a phase II multicentre, randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	Kaku Kohei	糖尿病・代謝・内分泌内科
Diabetes Care 36(2)	Randomized, double-blind, dose-ranging study of TAK-875, a novel GPR40 agonist, in Japanese patients with inadequately controlled type 2 diabetes.	Kaku Kohei	糖尿病・代謝・内分泌内科
Endocrine J.	Longer HSD11B2 CA-repeat in impaired glucose tolerance and type 2 diabetes.	Mune T	糖尿病・代謝・内分泌内科
Hypertens Res.	HSD11B2 CA-repeat and sodium balance.	Mune T	糖尿病・代謝・内分泌内科
Diabetes Obes Metab 15(2)	Vildagliptin preserves the mass and function of pancreatic cells via the developmental regulation and suppression of oxidative and endoplasmic reticulum stress in a mouse model of diabetes.	Hamamoto Sumiko	糖尿病・代謝・内分泌内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
糖尿病 55(6)	インスリンデミルは、体重増加なく血糖コントロールを改善させる—NPHからの切り替え例での検討—	木村 友彦	糖尿病・代謝・内分泌内科
神経治療学 第29巻 第2号 別刷 29(2)	筋ジストロフィーの新時代の治療	砂田 芳秀	神経内科
難病と在宅ケア 18(3)	筋疾患に対するマイオスタチン阻害療法の開発と応用	砂田 芳秀	神経内科
神経治療学 29(4)	筋疾患の治療の進歩	砂田 芳秀	神経内科
神経治療学 29(5)	筋ジストロフィーの分子治療	砂田 芳秀	神経内科
臨床病態学 1(2)	デュシェンヌ型筋ジストロフィー 肢体型筋ジストロフィー 顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー	砂田 芳秀	神経内科
神経治療学 30(2)	筋ジストロフィーの分子治療	砂田 芳秀	神経内科
Brain and Behavior 3(1)	Development of sensory neuropathy in streptozotocin-induced diabetic mice.	Murakami T	神経内科
日本内科学会雑誌 101(8)	内科疾患と脳神経疾患:診断と治療の進歩。 トピックス:XIII. 感染免疫と脳神経疾患(Guillain-Barre症候群, Fisher症候群, Crow-Fukase症候群, インフルエンザ脳症, AIDS脳症)	黒川 勝己	神経内科
MEDICINAL 2(5)	抗認知症4薬剤の位置づけ 認知症の症状に応じた抗認知症4薬剤の位置づけ	片山禎夫	神経内科
神経内科 76(4)	骨格筋再生治療	大澤 裕	神経内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology 92(8)	An inhibitor of transforming growth factor beta type I receptor ameliorates muscle atrophy in a mouse model of caveolin 3-deficient muscular dystrophy	Ohsawa Y	神経内科
Neuromuscular Disorders 22(9-10)	Muscle-specific overexpression of caveolin 3 causes muscle atrophy, but not muscular dystrophy	Ohsawa Y	神経内科
臨床神経学 52(6)	Acute fulminant brachial plexopathy with good recovery:Electrophysiological features	Hemmi S	神経内科
Clinical Neuroscience 30(9)	慢性進行性外眼筋麻痺症候群(CPEO)/Kearns-Sayre syndrome(KSS)	逸見 祥司	神経内科
Internal medicine 51(24)	Taurine Ameliorates Impaired the Mitochondrial Function and Prevents Stroke-like Episodes in Patients with MELAS	Rikimaru M	神経内科
脳外誌 21(12)	頸動脈内膜剥離術	宇野 昌明	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル 21(10)	救命し得なかつた重症特発性低髄液圧症候群の1例	横須賀 公彦	脳神経外科
脳血管攣縮 27	スパズム研究の最前線 モニタリング編 SAH 発症早期のTCD値による脳血管攣縮の発生予測	戸井 宏行	脳神経外科
こころの科学 (164)	大人の発達障害と「誤診」	青木 省三	心療科
そだちの科学 (19)	治療や援助の場としての学校	青木 省三	心療科
こころの科学 (167)	身体表現性障害の診かたとその対応	青木 省三	心療科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科治療学 27(6)	間歇性爆発性障害	山田 了士	心療科
日本精神科病院協会雑誌 32(2)	精神科でのてんかん医療 - 1. てんかんに伴う精神症状と心因性非てんかん性発作	山田 了士	心療科
統合失調症のひろば (1)	急性期の関わり	村上 伸治	心療科
臨床精神医学 41(増刊号)	認知行動療法 ②行動療法	宮崎 哲治	心療科
FEMS Microbiol Lett. 329(2)	Genomic screening for Chlamydophila pneumoniae-specific antigens using serum samples from patients with primary infection	Ouchi K	小児科
BMC Infect Dis. 12	Macrolide-resistant Mycoplasma pneumoniae in adolescents with community-acquired pneumonia	Ouchi K	小児科
nature genetics. 44(5)	A genome-wide association study identifies three new risk loci for Kawasaki disease	Ouchi K	小児科
Respirology. 17(7)	Influence of age on the clinical differentiation of atypical pneumonia in adults	Ouchi K	小児科
J Infect Chemother. 18(6)	A practical approach estimating etiologic agents using real-time PCR in pediatric patients with community-acquired pneumonia	Ouchi K	小児科
BMC Infect Dis. 13	Diagnostic value of symptoms and laboratory data for pertussis in adolescent and adult patients	Ouchi K	小児科
J Infect Chemother.	Atelectasis caused by macrolide-resistant Mycoplasma pneumoniae pneumonia in an adult patient	Ouchi K	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Congenit Anom (Kyoto). 52(2)	Spastic quadriplegia in Down syndrome with congenital duodenal stenosis/atresia	Masuno M	小児科
小児外科 44(4)	下大静脈後尿管	植村 貞繁	小児外科
小児外科 45(2)	学童の胸部陥凹	山本 真弓	小児外科
日本小児外科学会雑誌 48(6)	胎児MRIで臍帯囊胞を認めた尿膜管開存症の1例	納所 洋	小児外科
Reproductive Sciences 19(11)	Maternal hyperventilation during labor revisited: its effects on fetal oxygenation.	Tomimatsu T	産婦人科
現代産婦人科 61(1)	当院におけるIgA腎症合併妊娠の検討	石田 剛	産婦人科
癌と化学療法 39(4)	転移乳癌患者におけるフェンタニルパッチによるモルヒネとオキシコドンに起因する副作用の軽減効果に関するパイロット研究	園尾 博司	乳腺甲状腺外科
日本乳癌検診学会誌 21(2)	乳がん超音波検診の精度管理に関するアンケート結果	園尾 博司	乳腺甲状腺外科
Breast cancer	Marked lymphovascular invasion, progesterone receptor negativity, and high Ki67 labeling index predict poor outcome in breast cancer patients treated with endocrine therapy alone.	Kurebayashi Junichi	乳腺甲状腺外科
内分泌甲状腺外科学会雑誌 29(4)	トリプルネガティブ乳癌の治療戦略	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科
Hormones and Cancer. 4(1)	Intratumoral Estrogen Concentration and Expression of Estrogen-Induced Genes in Male Breast Carcinoma: Comparison with Female Breast Carcinoma.	Kurebayashi J	乳腺甲状腺外科

計 11

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery Today 42(633)	Current trends in TSH suppression therapy for patients with papillary thyroid carcinoma in Japan: results of a questionnaire distributed to councilors of the Japanese Society of Thyroid Surgery.	Tanaka Katsuhiro	乳腺甲状腺外科
日本乳腺甲状腺超音波医学 2(1)	甲状腺超音波診断のコンセンサス・ミーティング	田中 克浩	乳腺甲状腺外科
The Journal of Dermatology 39(6)	Successful treatment with infliximab for refractory pyoderma gangrenosum associated with inflammatory bowel disease.	Hayashi H	皮膚科
Modern Rheumatology 22(2)	Necrotizing fasciitis in a patient with heumatoid arthritis treated with tocilizumab	Yoshitaka Morita	リウマチ・膠原病科
International Journal of Rheumatic Diseases 15(2)	Mesenteric panniculitis: a rare cause of fever	Hiroyasu HIRANO	リウマチ・膠原病科
日本整形外科学会雑誌 86(9)	脊椎内視鏡下手術の現状 2011年1月～12月手術施行状況調査・インシデント報告集計結果	長谷川 徹	整形外科
中国・四国整形外科学会雑誌 24(3)	慢性腎不全患者に対する脊椎内視鏡手術の有用性-中期成績-	中西 一夫	整形外科
中国・四国整形外科学会雑誌 24(3)	脊椎内視鏡下手術は痛みに対して有用なのか	中西 一夫	整形外科
Hip Joint 38	初回人工股関節全置換術後の静脈血栓塞栓症予防における抗凝固薬投与の予防効果	黒田 崇之	整形外科
Journal of Spine Research 3(8)	腰椎椎間孔狭窄に対する内視鏡下椎弓根内進入椎弓根部分切除術の経験	射場 英明	整形外科
中国・四国整形外科学会雑誌 24(2)	腰椎椎間孔狭窄に対する内視鏡下椎弓根内進入椎弓根部分切除術の経験	射場 英明	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 55	胸腰椎破裂骨折に対する胸腔鏡下手術(VATS)の検討	清水 総一郎	整形外科
中国・四国整形外科学会雑誌 24(3)	胸腰椎破裂骨折に対する胸腔鏡下手術(VATS)の検討	清水 総一郎	整形外科
形成外科 56巻6号	折れ耳(絞扼耳輪)の治療	稻川 喜一	形成外科
Journal of gastroenterology and hepatology 27(Suppl 3)	Risk and preventive factors of low-dose aspirin-induced gastroduodenal injuries: A comprehensive review.	Shiotani Akiko	食道・胃腸内科
Journal of clinical gastroenterology 49(10)	Analysis of Small-bowel Capsule Endoscopy Reading by Using Quickview Mode : Training Assistants for Reading May Produce a High Diagnostic Yield and Save Time for Physicians.	Shiotani Akiko	食道・胃腸内科
Scandinavian journal of gastroenterology 8-9(47)	Esophageal motor dysfunction plays a key role in GERD with globus sensation - Analysis of factors promoting resistance to PPI therapy.	Tsutsui Hideaki	食道・胃腸内科
Journal of Gastroenterology 47(10)	Usefulness of endoscopic brushing and magnified endoscopy with narrow band imaging (ME-NBI) to detect intestinal phenotype in columnar-lined esophagus.	Murao Takahisa	食道・胃腸内科
Journal of Medical Ultrasonics 39(3)	Contrast-enhanced ultrasonography with Sonazoid for the evaluation of bowel ischemia	Kanzaki Tomoko	食道・胃腸内科
J Gastroenterol Hepatol	Iron metabolic disorder in chronic hepatitis C: mechanisms and relevance to Hepatocarcinogenesis	Keisuke Hino	肝・胆・膵内科
Hepatic Medicine:Evidence and Research 5	Treatment of nonalcoholic steatohepatitis with vitamins E and C:a pilot Study.	Keisuke Hino	肝・胆・膵内科
Intern Med	Risk Factors for Survival and the development of Hepatocellular Carcinoma in Patients with Primary Biliary Cirrhosis.	Yasuyuki Tomiyama	肝・胆・膵内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol 47	First jejunal vein oriented mesenteric excision for pancreateoduodenectomy	Masafumi Nakamura	消化器外科
Journal of Gastroenterology 33	Targeting the hedgehog signaling pathway with interacting peptides to Patched-1	Masafumi Nakamura	消化器外科
Anticancer research 32	Extensive distal pancreatectomy for pancreatic tumor	MASAFUMI NAKAMURA	消化器外科
Anticancer research 32	A Combined Therapy with Docetaxel and Nedaplatin for Relapsed and Metastatic Esophageal Carcinoma	HIDEO MATSUMOTO	消化器外科
Anticancer research 32	An Immunoassay Method for the Pharmacokinetics of 5-Fluorouracil in Patients with Gastric Cancer Administrerd Adjuvant Chemotherapy	HIDEO MATSUMOTO	消化器外科
Abdominal Oncology 1(1)	Clinical Benefit of Non-Curative Resection for Stage IV Gastric Cancer	Hideo Matsumoto	消化器外科
Journal of gastroenterology 47	Analysis of lymph node metastasis in pancreatic neuroendocrine tumors(PNETs) based on the tumor size and hormonal production	Kosuke Tsutsumi	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 73(3)	化学療法により完全寛解を認めた切除不能進行胃癌の1例	東田 正陽	消化器外科
ANTICANCER RESEARCH 32(12)	Evaluation of 5-FU Plasma Concentration by ¹³ C Breath Test in Patients Treated with Oral 5-FU Analogs	MASAHIRO HIGASHIDA	消化器外科
頭頸部外科 22(2)	当科における局所進行上顎洞癌症例に対する三者併用療法の検討	宇野 雅子	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床 105(5)	耳下腺基底細胞腺癌例	瀬本 真一	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻咽喉科臨床 105(12)	咬筋に発生した顆粒球肉芽腫例	濱本 真一	耳鼻咽喉科
Journal of Smooth Muscle Research 48(2-3)	Effect of sugammadex on bronchial smooth muscle function in rats.	Naoki Yoshioka	麻酔・集中治療科
Journal of magnetic resonance imaging : JMRI 35(4)	Peripheral low intensity sign in hepatic hemangioma: diagnostic pitfall in hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI of the liver	Tamada Tsutomu	放射線科 (画像診断)
Journal of magnetic resonance imaging : JMRI	Hypointense hepatocellular nodules on hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI: Can increasing the flip angle improve conspicuity of lesions?	Tamada Tsutomu	放射線科 (画像診断)
Journal of magnetic resonance imaging : JMRI	Simple Method for evaluating the degree of liver parenchymal enhancement in the hepatobiliary phase of gadoxetic acid-enhanced magnetic resonance imaging	Tamada Tsutomu	放射線科 (画像診断)
AJR. American journal of roentgenology	Newly developed Hypervasculat Hepatocellular Carcinoma during Follow-up Periods in Patients with Chronic Liver Disease: Observation in Serial Gadoxetic Acid-Enhanced MR Examinations	Yamamoto Akira	放射線科 (画像診断)
J Comput Assist Tomogr 36(2)	Serial 3-dimensional volumetric computed tomography evaluation of lung cancer growth rate in patients with chronic obstructive pulmonary disease findings.	Tanimoto Daigo	放射線科 (画像診断)
Journal of magnetic resonance imaging : JMRI	High-risk nodules detected in the hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced mr imaging in cirrhosis or chronic hepatitis: Incidence and predictive factors for hypervasculat transformation, preliminary results	Higaki Atsushi	放射線科 (画像診断)
Magn Reson Imaging 30(5)	Potential clinical factors affecting hepatobiliary enhancement at Gd-EOB-DTPA-enhanced MR imaging.	Higaki Atsushi	放射線科 (画像診断)
Journal of magnetic resonance imaging : JMRI	Corticomedullary differentiation of the kidney: Evaluation with noncontrast-enhanced steady-state free precession (SSFP) MRI with time-spatial labeling inversion pulse (time-SLIP)	Kanki Akihiko	放射線科 (画像診断)
Magnetic resonance imaging 30(3)	Hepatic parenchymal enhancement at Gd-EOB-DTPA enhanced MR imaging – Correlation with morphological grading of severity in cirrhosis and chronic hepatitis	Kanki Akihiko	放射線科 (画像診断)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Research 2(1)	Single-photon emission computed tomography of spontaneous liver metastasis from orthotopically implanted human colon cancer cell line stably expressing human sodium/iodide symporter reporter gene.	Inubushi M	放射線科 (核医学)
Annals of Nuclear Medicine 27(1)	Predictive value of 3'-deoxy-3'-[18F]fluorothymidine positron emission tomography/computed tomography for outcome of carbon ion radiotherapy in patients with head and neck mucosal malignant melanoma.	Inubushi M	放射線科 (核医学)
Current Pharmaceutical Design 18(22)	Utility of DNA methyltransferase inhibitors for the treatment of myelodysplastic syndromes.	Tohyama Kaoru	中央検査部
Current Pharmaceutical Design 18	Approach to new therapeutics: Investigation by the use of MDS-derived cell lines.Curr Pharm Desig	Tsujioka T	中央検査部
Experimental Hematology 41(2)	Effects of DNA methyltransferase inhibitors (DNMTIs) on MDS-derived cell lines	Takayuki Tsujioka	中央検査部
Human pathology. 43(8)	Neuroendocrine and mucinous differentiation in signet ring cell carcinoma of the stomach: evidence for a common cell of origin in composite tumors.	Kanomata N.	病院病理部
Medical molecular morphology	Simultaneous demonstration of gelatinolytic activity, morphology, and immunohistochemical reaction using zymography film.	Kanomata N.	病院病理部
DNA多型 20	脱共役蛋白質1(UCP1)遺伝子多型と日常生活習慣の関連	秋山 祐治	医療資料部

計 8

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計 139

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 園尾 博司
管理担当者氏名	病院事務部長 難波 徹

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療資料部	外来・入院診療録は電子カルテ X線フィルムはP A C S (医用画像保管・配信システム) (※H21.12.31以前は紙カルテで保管)
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課 病院事務部病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院事務部病院庶務課	
	閲覧実績	病院事務部医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部医事課 薬剤部	
第規一則号第に一掲条げる十体一制第一確項保各の号状況び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部病院庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	病院事務部病院庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	MEセンター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 難波 徹
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 村上 進、医事課長 大塚 京子
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課（応接室）

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	62.1 %	算 定 期 間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算 A : 紹 介 患 者 の 数			13,593 人
出 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			15,381 人
根 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数			3,322 人
拠 D : 初 診 の 患 者 の 数			36,626 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ・川崎医科大学附属病院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年46回
・ 活動の主な内容： ・医療安全管理に関する委員会は、まず院内の取り組みを総括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置し、その下部委員会として、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図る「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。また、医療事故の発生事例に対処する「事故調査委員会」「病院医療委員会」を設置している。 (1) 病院医療安全管理委員会：24回開催 病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織である。 医療安全問題に関する現状の把握と院内情報公開に関する事。医療事故の予防と対策に関する事。安全医療を提供するためのマニュアルに関する事。医療安全管理の教育、研修と啓発活動に関する事。啓発活動としてニュースレターの発行、医療安全推進週間のポスター等の作成、医療安全カレンダーの作成。 (2) リスクマネージャー連絡会議：11回開催 病院医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発する。 6つのワーキンググループを形成して定期的に会議（月1、2回）を行い、インシデント報告書のレビューを行う。インシデント報告内容については定期的にデータを評価する。再調査が必要な事例や、ニュースレターの原稿作成の基となる情報や職員への通達、啓発が必要な事項があれば各ワーキンググループから委員会議事録を持って医療安全委員会に要望・進言をする。年1回はワーキンググループが月単位で医療安全パトロールを実施し、ワーキング活動の検証を行う。 (3) 病院医療委員会：2回開催 医療事故発生への対処を適切かつ円滑に実施するために病院運営委員会の小委員会で対処方法に関する事項を審議する。 (4) 事故調査委員会：2回開催 (5) 医薬品安全管理委員会：1回開催 (6) 医療機器安全管理委員会：6回開催	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容： ・川崎医科大学附属病院のための基本的な考え方及び具体的な方策について職員に周知徹底するため、平成24年度は次の研修を実施した。 1. 「平成23年度リスクマネージャーWGの活動報告」 (器械・器具WG、食事・IC・書類WG、手術・処置・損傷WG) 医師 218名、看護師 374名、その他 356名 DVD 視聴 459名 計 948名 総計 1407名 2. ①平成23年度リスクマネージャーWGの活動報告 (注射・内服・外用WG、検査・輸血WG、転倒・転落WG) ②「医薬品について禁忌を意識していますか」医薬品安全管理委員会 医師 201名、看護師 291名、その他 384名 DVD 視聴 396名 計 879名 総計 1275名	

3. 「がん患者の褥瘡ケア 体圧分散ケアを中心に」 医師 159 名, 看護師 319 名, その他 265 名 DVD視聴 なし	計 743 名 総計 743名
4. ①医療機器安全管理委員会 ・医療機器安全管理委員会からの報告とお願い ・除細動器について ・MRIに関する安全 ②輸血療法適正使用委員会 ・院内における輸血療法の現状と課題 医師200名, 看護師317名, その他321名 DVD視聴481名	計 838名 総計 1319名
5. 患者が望む医療とは 医師204名, 看護師291名, その他384名 DVD視聴 353名	計 879名 総計 1232名
6. 全員で取り組む医療安全—高いリスクと信頼の中で— 医師 171 名, 看護師 341 名, その他 396 名 DVD研修会 142 名 DVD視聴 390名	計 908 名 総計 1440名
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ・ その他の改善の方策の主な内容： 1. ニューズレターによる情報の提供・広報・啓発活動（2回/月 発行） 2. インシデント・アクシデント防止のために必要時注意・啓発目的でDVD・標語・ポスターの作成 3. リスクマネージャーウーリンググループ活動・医療安全パトロールからの情報・アクシデントの分析から対策案等をマニュアル化して医療安全マニュアルに追加する	（有）・無
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	（有）（1名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	（有）（7名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	（有）・無
・ 所属職員： 専任（2）名 兼任（2）名 ・ 活動の主な内容： 1. 病院医療安全管理委員会と各部門から選出されたリスクマネージャー（ワーキンググループ）らと連携を図り、効果的具体案を検討し、要望、意見、質問に対して対応をする。 2. 日本医療機能評価機構の認定更新のために患者の権利と安全の確保（患者の安全確保体制）、診療の質の確保（診療に係る安全管理の評価）と安全のためのケアプロセスについての評価や医療安全管理指針を文書で作成する。また、改訂について検討する。 3. インシデント報告に対するフィードバック機構の充実→毎日各部署の巡視、各部門とのコミュニケーションと現状把握。 4. 各部門とのコミュニケーションと現状把握、検証のために医療安全管理委員会やワーキンググループのメンバーで月1回の医療安全パトロール等の病棟等の巡視を行う。 5. 安全医療を提供するための医療マニュアル（総論版、ポケット版、各診療科版）の改訂。 6. 医療安全に関する職員教育講演会、他研修会の計画、実施、評価。 7. 医療安全管理部の広報誌ニュースレターのより一層の充実を図り、全職員の啓発活動を行う。 8. 医療安全管理部の活動をホームページで紹介し、内容の見直しを行う。 9. 医療安全推進月間の継続、毎年実施するイベントの計画立案、実施する。 10. 新入職員に関する医療安全教育の計画立案、実施する。 11. 医療安全カレンダーを作成し、啓発活動を行う	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	（有）・無

(様式第13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ・院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、当該指針の閲覧およびその他院内感染対策推進のための必要な基本方針について記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ・職種横断的に委員がおり、院内感染対策室の活動状況、ICTの活動、耐性菌の発生状況、抗菌使用状況、問題のある例などが報告され、協議検討されている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容： ・1回は外部講師により院内感染対策に関する講演会、2回は院内講師で薬剤耐性菌の基礎、標準予防策および感染経路別予防策について講演した。また中途採用者と未受講者を対象にした講演会を実施した。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ その他の改善の方策の主な内容 ・毎週、院内の耐性菌発生状況が報告され、それによってICTのラウンドとは別に病棟ラウンドしている。またMRSAなど耐性菌の多い病棟や救命救急センターなどで、薬剤耐性菌に関するワーキンググループを作つて活動している。	(有)・無

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： ・ 新入研修医対象研修会 「医薬品安全管理」（研修医、H24.4） ・ 職員教育講演会 「医薬品について禁忌を意識していますか」（全職員、H24.11） ・ 医薬品に関する研修会 「取り扱いに注意を要する医薬品」 （1,2年目の看護師、研修医、H24.11）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： ・ 手順書の定める内容に従ってマニュアルを作成し、業務を実施している。 ・ 業務実施確認チェックリストを用いて、半年に1回、実施状況を確認している。 ・ 医薬品管理チェックリストを用いて、病棟、外来処置室における安全使用を確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医薬品安全性情報が発出された品目について、当該製剤を処方する診療科、医師に対して個別に情報を提供し対策を検討する。 ・ リーマス錠（H24.4 重篤なリチウム中毒と血中濃度測定遵守について） ・ 医薬品による重篤な皮膚障害の早期発見について（H24.4） ・ ラジレス錠（H24.6 ACE-IとARB投与中の糖尿病患者に併用禁忌） ・ ランマーク皮下注（H24.9 重篤な低カルシウム血症） ・ テラビック錠（H24.9 急性腎不全等の重篤な腎機能障害発現について） ・ リーマス錠（H24.4 PMDAより血中濃度測定遵守について） ・ テラビック錠（H25.2 重篤な感染症について） ・ 院内で発生したインシデント報告は、医療安全管理委員会経由で注射・内服・外用ワーキングチームで対応を検討し、医療安全管理委員会に上申する。審議の結果は、リスクマネージャー会議で報告され、各部署代表のリスクマネージャーを通して全職員に周知される。	

(様式第13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年97回
・ 研修の主な内容： ・ 新規に導入された医療機器について実施（2013年度：透析装置、人工呼吸器、ベンチュリーネブライザマスク、生体情報モニタほか） ・ 定期的な研修としては除細動器、人工呼吸器、ペースメーカ、保育器などの使用方法、トラブル対応などについて実施 ・ 各部署から個別研修依頼への対応 ・ 新入職員（看護師・研修医ほか）研修：除細動器、輸液ポンプシリンジポンプ、人工呼吸器など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： ・ MEセンターによる中央管理機器（人工呼吸器、除細動器、保育器、血液浄化関連装置、体外循環装置、輸液シリンジポンプなど） ・ 放射線関連機器については、診療放射線技師による日常点検及び、メーカにて定期点検を実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善の方策の主な内容： ・ 情報収集の方法 外部メーカや業者からの入手、PMDA及び厚生労働省等からの入手（メール登録含む）、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会などの開催時における各部門からの報告による入手。 ・ 情報の周知方法 院内医療機器研修会（12月予定）および院内職員教育講演会（12月予定）等による従事者への情報提供（資料配布含む）、新人等に対する研修（4月、5月、6月）も含む。また、院内電子掲示板を利用してMEセンターから職員へ周知、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会の定期的な開催による報告と情報収集、ニュースレタ一（医療安全管理部発行・隔週発行）回覧による職員への周知。 ・ 自主回収の情報収集及び改善の方策の実施 関係部署及び職員に通知文にて周知、および医療機器安全管理委員会を通じて報告周知など（血液浄化装置、除細動器、補助循環装置、放射線診断装置、医療材料等）	